

PM2.5

～学習会のご案内～

危惧される健康への影響

日時 2014年5月26日(月)
18:00～

会場 川崎市産業振興会館第3研修室【9階】
(JR川崎駅西口より徒歩8分)

講演 「PM2.5 危惧される健康への影響」
嵯峨井 勝氏
(つくば健康生活研究所代表
元国立環境研究所大気影響評価
研究チーム総合研究官)

資料代 500円



スギ花粉の大きさは一般的に20～40 μ mですが、それよりはるかにPM2.5は小さいことがわかります。

●著者紹介

嵯峨井 勝 (さがい まさる)

1943年北海道生まれ。北海道大学薬学部卒業、同大薬学博士号取得、国立公害研究所環境生理部研究員、カリフォルニア大学デビス校留学、国立環境研究所大気影響評価研究チーム総合研究官、森県立保健大学教授・同大健康科学研究研修センター長(併任)を経て、現在つくば健康生活研究所代表、青森県立保健大学名誉教授。

大気汚染学会学術賞受賞、非常勤講師(札幌医大、東大大学院医学研究科、青森県立保健大学)：
著書：『過酸化脂質と生体』(共著：学会出版センター、1985)、『フリーラジカルと生体』(共訳：同上、1988)、『ディーゼル排ガス汚染』(単著、合同出版、2002)、『酸化ストレスから身体をまもる』(単著、岩波書店、2010)、他。

近年、PM2.5(微小粒子状物質)による健康への影響が懸念され、大きな社会問題になっています。中国の大気汚染が原因とも言われていますが、国内のディーゼル排出ガスが主な要因であることは明らかです。

2009年9月に国はアメリカより遅れること12年、公害健康被害者の強い要望に押されてアメリカと同じ環境基準値を設置しました(現在アメリカはさらに環境基準を引き下げています)。

PM2.5は非常に小さな粒子(1 μ mは1mmの千分の一)のため、肺の奥深くまで侵入し、血管やリンパ管を通して全身に入り込み、気管支喘息や肺がんなどを発症し、さらに脳・神経系や次世代にわたる生殖系への影響も懸念されています。

この度、PM2.5が健康に及ぼす影響を考えるため、わが国の疫学調査研究の分野では第一人者である嵯峨井勝先生をお招きして学習会を計画いたしました。皆様のご参加をお待ちしています。

主催

川崎公害病患者と家族の会

〒210-0006 川崎区砂子2-8-1-304

TEL 044-211-0391

FAX 044-233-4689

Mailアドレス k-kougai@sky.sannet.ne.jp

会場案内図



※当館をご利用の際は、電車、バスをご利用ください。
JR川崎駅から徒歩8分、京浜急行川崎駅から徒歩7分

●著書紹介 「PM2.5 危惧される健康への影響」

中国のPM2.5 汚染の現状と原因の紹介から始め、国内の国内のPM2.5 はほとんどがディーゼル排気微粒子 (DEP) であることを述べ、PM2.5 の人への健康影響と動物実験で知られている広範な健康影響を紹介。さらに、ディーゼル排ガスが気管支ぜん息の原因物質であることを証明した研究とその結果をもとに裁判で闘われた因果関係論を紹介している。